

玉縄ふれあい文化展の実行委員で

「夢を育てる遊び塾 ひまわり」を主宰

名倉 一茂さん (植木在住)



年に一度玉縄学習センターで「玉縄地域ふれあい文化展」が開かれるが、その実行委員を務め、絵画部門を担当する。

名倉さんの描く油絵は、静物、風景画ともに趣味の域を脱したもので、上野の森美術館で毎年開催される「日本の自然を描く展覧会」の上位入選者の常連でもある。

「先生について、絵をしっかりと勉強したわけではなく、見よう見まね。独学でした。描くことが好きだったんです。中学生のころ夢中だった水彩画が、自分の基盤になっているんでしょうかね」。

油絵を描く傍ら、植木地区で「夢を

育てる遊び塾」を主宰する。ここでは油絵を描いてみま専科のほか、クロダイを釣ってみま専科、シーカヤック・カヌーを漕いでみま専科、といった盛り沢山な”専科”がある。

名倉さんの現役時代のスタートは、サラリーマン。父親が「技術を身につけろ」とばかりに、本人の知らないうちに、東京電機大学付属に願書が出され、やむなく技術の道を学ぶことになったからでもある。

しかしご当人は「文章を書くことが好きだったので、畑違いの新聞社に入ったこともあった」りして、後はさまざまな仕事を経験する。

昭和46年に脱サラ。事務機器の商社をスタートさせ、コピー機やコンピューター機器などを普及する先頭に立った。

平成8年、仕事から解放され「さて、これから何を」と、思い立ったところから、こんどは趣味の世界で、エネルギー活動が始まる。油絵というまず、自分なりの趣味の核を育てた。

加えて、趣味の仲間を広く地域に広げる活動にも乗り出した。それが、「夢を育てる遊び塾」というわけ。リタイアした後の人生を、お互い共通の趣味を持った人たちで語らい、いわば第二の人生をエンジョイしようと言うのが趣旨だ。

玉縄地区でも多くの仲間

現在、同塾「ひまわり」には 20 人余りの塾生らが、それぞれのグループに分かれ、真鯛釣りの仕掛けでクロダイを狙ったり、奥深く趣のある釣りを楽しむ。船頭さん任せに、魚群探知機で魚のいるところで、釣行するのは邪道とばかり、自ら魚を求めて、磯にのぼり、堤防に船で渡る。

“シーカヤック・カヌーを漕いでみま専科”は、教室が三浦・油壺。こちらは息子さんが経営するショップ「パドリング ウルフ」が同塾をバックアップする。

「最近は何のせいもあって、身体を動かす方より油絵の方に偏りがち」というが、同塾「ひまわり」と、名倉さんのモットーは”Art is Adventure”。

「絵を描いたり、釣りをしている時だって、いつも楽しいばかりではありません。人生ですから。時には、悩み苦しむことだってありますね。しかし、心境はいつもこのアドベンチャー精神です」。



ご自慢のひまわりの前でニコリ

1936年、東京・本郷生まれの74歳。昭和51年から植木に在住する。平成15年から当地でひまわり塾をスタート。娘さんは舞台俳優、朗読教室の講師でもある。また彼女のご主人は、シンガーソングライターで、鎌倉や茅ヶ崎などでもライブを開く。芸術派ご一家である。

「ひまわり塾」 ☎0467-44-7471